

くどう市長と語ろう！
ふれあいトーク（第15回）



日 時 平成27年11月5日（木） 18:30～

場 所 宝来地区活動拠点センター（宝来4丁目）

《第15回 ふれあいトーク 開催結果》

- 参加者数 27名 (男女別) 男性19名 女性8名
- 市長挨拶ののち、総務部防災担当主幹より市の防災マップやスライドを使い
災害発生時の宝来地区の避難場所や避難の方法などを地域のみなさんへ
説明させていただきました。

【トークの内容】

1. 北(宝来)地区の施設と北(宝来)地区の今後について
2. まちづくり委員会について
3. 災害時における避難体制について
4. 人口減少と子育て運動について

※参加されたみなさんより出されました上記のご意見・ご質問と、それに対する市長の回答を要約したものを掲載しております。内容によって、終了後に所管課において検討した結果や追記事項等を合わせて掲載いたしました。

1. 北（宝来）地区の施設と北（宝来）地区の今後について

◆参加者からのご質問・ご意見等 （質問）

- ①北地区の方は今後の発展を考えた時、市体育館・総合福祉センター耐用年数が来ていると感じている。今度どうなっていくのか？
- ②北地区(宝来地区)には小学校、体育館、福祉センターなどがあり、老朽化しているところは建て替えてまちづくりの拠点としてはどうか？今後高齢化が進み、若者、学生も減ると思う。小・中学校、幼稚園など一つにする。また、診療所や図書館なども一緒にして北地区の核になったり、そんな風にできないだろうか？
- ③社教センター北分館で老人クラブの行事を実施しているが、老朽化しており、カビが発生しているところもある。衛生上よくないので改修をお願いしたいと思っている。

◆市長の回答

- ①①、②北地区の方は港町を中心に栄えて、公共施設が建っていったが、昭和40年代後半から富岡を中心に団地が造成され住宅・人口が移動し、南地区にも公共施設が求められてきた。現在南地区活動拠点センターが建設が始まったところ。
 - では、中央から北はどうするのかと言うと、稚内中が建替えの時期に来ており、教育委員会で主導している小中一貫校教育は、物理的には学校が近いほうが一番いいので、東小、東中の例をベースに、稚内中と中央小も考え方を整理していきたいと考えている。建物としては中央小の方が新しいので、中央小周辺に、福祉センターや体育館は古くなっている。お金はかかるが解体して、一帯を文教地区として整備したいと考えている。まだ具体的時期はないが、稚内中のこともあり、教育委員会を中心に検討してほしいという話をしている。南地区がある程度姿が見えてきたので、次は北だという話はしている。
 - 診療所の話については、開業医誘致にも取り組んでいるが、まず医師を連れてこなくてはならない。（見に来た方に）北地区も見せているが、人口が少ないこともあり、なかなか難しい印象。公営住宅に関しては、昔、中央小の子どもたちに稚内の将来について話したことがあり、この地域にも市営住宅が出来て、たくさん人が住み、もっと活気が出るよと当時話したが、現実問題として（古い住宅の）住み替えになるなど、思い描いていたものと違っている反省がある。一朝一夕に若者をそこに定着させるのは難しい話。時間のかかる話ではあると思うが、学校整備を中心に、もう一度この地域を考えたい。

◆市長の回答

③社教センター北分館については、何十年も前に北小学校の跡利用をする際に、しっかり公共施設の位置づけが明確にならないまま、「空いているところを使うのであれば使って」のような事で行ってきたと思う。大規模な補修はしないが、使えるうちは使って、いずれ壊すという話で、皆さんも使っているうちに不便が出てきたり、古くなってきたり、色んな話が出ていると思う。すぐ壊すというつもりはないが、このまま使い続けるということにはならないと思っている。

- 地域の方には、この活動拠点センターを有効に使ってくださいというのが、センターを建てた時の考え方で、北分館がダメなら福祉センターなどの周辺施設で使えるところはないか？という話も所管課にしているが、北分館に手を加えて、長寿命化する考えは、今のところないということです。ご理解ください。

■ 所管課の検討状況など 【担当…総務部契約管財課】

社教センター北分館については、北地区の今後の計画が決定するまでの間もうしばらく使用していただくことは可能です。今後も大規模な改修は行わないとしても、天井や壁の一部に発生したカビは衛生上の問題もあり、何らかの補修は必要であると考えております。天井や壁の全面の補修はできませんが、カビがひどい部分についてのみ補修ができないか、新年度の実施に向けて検討してまいります。

2. まちづくり委員会の今後について

◆参加者からのご質問・ご意見等

(質問)

- ①各地区にまちづくり委員会があるが、市としてどのような考えで立ち上げたのか？町内会の延長上であり、稚内市が地域をどうするかが見えない。「この地区をどうしたら活性化できるか？」ということを考えるのがまちづくり委員会の立場と思うがどうか？

◆市長の回答

(市長)

- ①まちづくり委員会については、始まって15年になった。いろいろ指摘や批判もいただいている。設立当時は地方分権が叫ばれ「地方が主役になる時代」の考え方がベースになっていて、地方分権の考え方に、全国での先進事例も参考に私たちも先どりして取り組んだ。
 - ・各町内会においては厳しい財政状況もあるし、身近な生活でいえば、それぞれ地域で特徴があり、求めるものも違うだろうから、「地域のやりたいことを財政的にフォローするのがいいだろう」という話で、15のブロックでスタートした。15に分けた理由は、同じ中学校区であれば問題も共有でき、生活の空気を共有できるとの考えからで、地域のことを自ら考えるという目的で進めたが、行政側も地域もどう運営すればいいかがあいまいで、結局花いっぱい運動や清掃などの取組になった。
 - ・住んでいる方みんなが、その考えを意識しているわけではないので、私たちがやろうとしたことと、実際に地域にゆだねたことがかみ合わず、町内会の延長だろうと言われれば、近いものはある。とは言っても、町内会だけでもまとめるのは大変なのに、大きな単位でやるのはもっと大変で、成果が出ているところ、そうでないところがまだらになっていた。10年経って再度検証し、各地区で共通するテーマとして、防災をテーマに取り組んできたが、なかなか定着しなかった。
 - ・私たちも非常に悩んでいるが、悩みながらも、ここでやめるとはならないし、本来の目的は間違っていないと思うので、焦らず整理するように所管課には指示している。効果を上げきれていない面はご指摘のとおりと思う。いろいろな意見を糧にし、取り組むことを続けていかななくてはならないと思う。

3. 災害時の避難体制について

◆参加者からのご質問・ご意見等

(質問)

①宝来の市営住宅には80歳以上の独り暮らしの方が多く、隣同士のつながりも難しいので、町内会長も苦労されている。大災害が起きたときに、どういう風に逃げたらいいのか、誰から指示いただけるのか、市民は皆不安を持っている。私達には防災マップ、防災ラジオが配布されているが、もう少し噛み砕いて、わかりやすく市民に周知徹底するかが大きな課題だと思う。津波においても災害の規模で避難場所を決めていただいたほうがいいのかどうか、避難場所もどれくらい収容できるのか、人数を分けて逃げたほうがいいのかなど日頃よく考えている。

- ・(これを踏まえ)宝来地区の住民はどこに逃げたらいいのか?行政はどこまでしてくれるのか?行政の指示や命令系統や、町内との結びつきはどうなっているか?

- ・避難所の食料、医薬品などを行政はもちろん、個人での備蓄を啓発しては?(意見)

②市の担当者には、どこかで地震があったときは、何時間で津波がくるという知識を持って、我々にお知らせしていただければ、町内会でも対応できるのかなと思う。

- ・町内会が小中学校と一緒に避難訓練したが、学校で防災の授業として、人を助けることの啓蒙をしてほしい。その上で避難時のお年寄りの補助など、若い人たちを活用して助け合いをしていくなど、小中学校の生徒の活力を避難に活かしてはどうか?

③FMわっかないスタジオは、もっと高いところにあって、市の広報をバックアップするとか、防災ラジオも、もっと有効に使ってほしいと思う。

④宝来地区には市営住宅や学校があるが、何階以上のアパートに何人避難できるとか、学校には何人収容出来るということを示していただければ。このくらいの事象であれば2階に上がる、外へは出さない、火災の時はどうするか、ということを高層の建物についてだけでも示してもらえれば、町内会の人も助かる。身体の不自由な方と行政や社会福祉協議会など、関係機関が良く協議して対策を取っておくといいと思う。行政が指示・指導するのと私たちがやることの垣根が今まで希薄だったと思うし、防災に対する意識も薄かったという反省がある。お互いに反省しながら、行政と地域が早急に協議して解決していかなければならないと課題だと思う。出来ることから指示・命令・指導していただき、町内会の会合で周知徹底していきたいと考えている。

- ・北地区には裏山に逃げる場所がないので、裏山の道路をきちんと整備したらいいと思う。北地区全体の問題として考慮していただきたい。

◆市長の回答

(市長)

①②災害と一口で言うけれど、どんな災害が来るかわからない。津波が来るかもしれないし、地震がおこるかもしれない、大火に遭うかもしれない、などその時々でああしましょう、こうしましょうというのは、なかなか現実的でないというか、全域に浸透させるのは難しい話。まさに災害が起きたときに、まずは、自分の身は自分で守ってほしい。そのために我々行政ができることは、防災ラジオもそうだが、起きたことを知らないまま、災害に巻き込まれることは防ぎたいので、先ず発生を知らせる。逃げる手立ては、皆さん日頃から考えておいていただきたい。とにかく自分の身を守ることが一番大事。先ずは自分の身で、そのあとは家族や隣近所を助ける、だからこそ自助・共助という話が出てくる。

だから、防災というのは皆に共通だけれど、起きる可能性や逃げ方など、地域によってバラバラなので、そこはしっかり地域ごとで訓練や自主防災組織も含めて、是非、大事な話として取り組んでください。先日、防災訓練があって、今まで、避難することが中心だったが、避難所でどう生活するのか、プライバシーはどう守るのかといったことに訓練の重点が移っているので、これまでと違うな、変化があるんだなと思った。身を守るために行政が出来ることとして、こうしたほうが良いという指摘があればそれに取り組んでいくし、自分で自分の身を守れない方もいるので、その方達には、今担当課でリストを作って、何かあったときはその方達を優先して守るという取組をしている。まずは逃げ方、ケガの防ぎを訓練してもらいたいと思います。我々もどんなことが起きたとしても 地域の人を全力で守るため訓練しますし、地域の皆さんも訓練して欲しいと思っています。

(防災担当主幹)

- 町内会の避難場所は最初に説明したとおりで、土砂災害の避難所について、その地域でしっかりお話をさせていただくとことも大事。行政が、ここは避難所ですよということは示すが、更に地域の方はその地域の地理的条件を全て押さえているので、行政に「こういう場所もあるよ」という提案をしていただければ、私たちがきちんと対応する。役割分担についても、地域防災計画の中で部署の役割をきちんと決めている。連絡体制においては町内会長さんに先ず連絡することが決められている。
- 情報伝達については防災ラジオと防災メールの発信もやっており、市民の皆さんに登録していただくようPRしていきたいと思う。

- 災害によっては道路が寸断される時もあり、我々や消防が救助に向かいたくても向えない、ということもあると思う。個々に寸断されているのであれば、地域の方が黙って試しているわけにはいかないということで、自主防災組織の結成ということも必要になると思う。その支援は行政でやっていくので、今後も各町内でお話しさせていただききたいと思っている。

- 要支援者の方についても、今、名簿作成の準備を早急に進めているが、その後のご協力をお願いしたい。

(市長)

③ FMわからないも当然問題意識を持っており、低いところに本社があるので、いざという時のために、旧商工高校の(仮称)防災センターに送信用アンテナを設置している。

(市長)

④ 大きい災害が起きたとき、現地に職員を出す。そこでどういう逃げ方をするか、避難所はどうするか、という話が出てくる。何百通りもの逃げ方を決めるのではなく、まずは現地を確認して、その報告を受けてどんな手だてをすればいいか本部で指示する、というやり方でやっていきたい。

- 10月の暴風災害で、酪農家が、停電時に普通の自家発電機ではダメだということが、今回の災害で初めてわかった。これも経験して初めてわかることで、我々も一つひとつ積み重ねて、周知したり、啓蒙したりしていかなければならないなと思う。災害が発生するたびに勉強させていただいている。

- いずれにしても、この地区と防災の話をするのはこれで最後というつもりは全くない。地域でどんなことを悩んでいるのか、受け止めるのは必要だと思うので、これからもこういうことを続けていったらいいと思っている。

4. 人口減少と子育て運動について

◆参加者からのご質問・ご意見等

(質問)

(意見：学校関係者)

- ①中央小は創立 50 年を迎え、児童数は一番多い時期から比べ 1/10 になった。人口に比べ子どもは減っていると感じる。財政が厳しい中、給食費や医療費援助、少人数学級もしてもらっているが、何より学校と地域、家庭のつながりがあって子どもたちが豊かに育っているなど感じるし、若いお父さん、お母さんも子育てしやすい街ということは言っている。先日の地域の合同避難訓練への参加などで、子どもたちにも地域に愛着をもってほしいし、今後も(皆さんには)子どもたちの支えや、学校への支援をいただければありがたい。市政の中で、大事な子育て運動を今後も継続していただければと考えている。

◆市長の回答

(市長)

- ①子育て推進協議会の会長の立場からも、子育て運動は 40 年以上続く、この街の財産と思っている。北地区はここで生まれ育った人も多く、子どもたちとの繋がりも濃い地域と思っている。様々な取り組みをやっていただいているし、これからも協力をお願いしたい。
- ・中央小はかつて全道一のマンモス校と言われたことが懐かしい。ハード面でも、子どもたちが学びやすい環境整備をしなければならないと思っている。今後ともよろしくお願いします。

■ 所管課の検討状況など 【担当…教育委員会学校教育課】

本市の学校においては、子育て運動や各中学校区に設置されている子ども支援ネットワークの活動など、地域・関係者の方々の理解や協力を得て教育活動が展開されているものと考えております。今後とも、子ども達を中心とした、それらの活動が更に発展されるよう努めてまいります。



今回の宝来地区でのふれあいトークには多くの皆さんにご参加いただき、活発な議論が交わされました。皆さんからいただいたご意見は、今後のまちづくりに活かしていきたいと思えます。

お忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。